

東京都医師会 定時記者会見

2022年2月8日（火）

東京都医師会 副会長

角田 徹

オミクロン株について

- 感染力はデルタ株と同程度（実効再生産数1.7~1.8）と思われます
→ 麻疹（はしか）のように1人から10人以上にうつす事はない
- 世代交代時間（ある人が感染してから他者へ感染させるまでの時間）がデルタ株（5~6日程度）より短く、2~3日ほどなので、感染のスピードが早い
→ 短時間に感染者数が激増する
- 上気道炎症状が多く、不顕性（症状のでない）感染はデルタ株より少ないよう
→ 軽い“風邪症状”も多い。症状を有する例が多い
- 小児を含めた若年者の感染蔓延が以前より顕著
→ 保育園・幼稚園・小学校・中学校等の場での感染拡大
- 重症化の危険性はデルタ株より低いようだが油断は禁物
→ 基礎疾患を有する方・高齢者・ワクチン未接種者は引き続き注意

オミクロン株感染蔓延下での初期医療体制

- 診療検査医療機関約4200箇所、そのうちHP等行政等の情報から公表している医療機関約2200箇所
 - * 医療機関の規模や種類、診療科・対象の患者さん等により、全ての医療機関が一律に公表することができない状況（通常医療を維持・継続するため）
- 地区医師会PCRセンター 約50箇所
- 休日夜間診療事業参画医療機関 約86箇所
- 都内病院数 650箇所
- 新型コロナウイルスワクチン接種医療機関数 約5000箇所

都民の方々へのお願い

* オミクロン株感染拡大下においても、感染予防の基本は変わりません
これらをより確実に行うことが極めて重要です

①マスクの適切な着用 ②手洗い ③十分な換気

④三密（密集・密接・密着）の状況を避ける

⑤軽度な体調不良でも、出勤や登校、他者と接触を確実に避ける

* 1mの距離を保ち両者がマスクをしていれば、飛沫を吸い込む可能性は極めて低い

* コロナワクチン（1回目、2回目、3回目）を接種できる状況であれば、ぜひ
ご検討ください

* 現場医療では第5波の際と異なり、現在『感染対応』と『ワクチン接種』を同時に行なっています。感染の可能性の高い（症状のある）方や重症化のリスクのある方を優先せざる得ない状況です